

目指せ一流（？）ダイバー！

本年度4月から、生き物の姿が見える職場で働きたいという念願（笑）かなって水産試験場生物部生物実験室で勤務することになりました。ここでは水技センター整備室との兼務辞令で夜も眠れないT主研のご指導のもと、海藻の研究、特に磯焼け等で消失してしまった藻場の復活をテーマとして日夜業務に励んでおります。

ところで、海藻を研究するにあたり必要な基本的なことは何でしょうか。その一つに、「ボンベを背負って潜れること」があります。何～だそんなこと、と思われる方が多いと思いますが、私には生物実験室に赴任するにあたって一つ問題がありました。それは「潜れない」ということです。これまでこの実験室で仕事をしてこられた先輩方は、潜れるのは当たり前で、（ボンベを背負って）一度海に入ったら2時間は上がってこないという強者ばかりだったそうです。また、前任のM研究員も、超人T主研に負けずに頑張っておられたとのこと。それに比べて私は、プールと遊び程度の素潜りしか経験したことのない身。少しばかりの不安はありましたが、案の定、ウェットスーツ購入後の初めての出張先である奄美大島で、いきなりの戦力外通告を受けてしまいました（泣）。来て2週間で戦力外通告では話にもなりません。このままでは一生使えん！ということで、生物実験室の潜水機材の整備等でいつもお世話になっているダイビングショップのDさんに講習をお願いし、ダイビングとは何ぞや、から教えていただくことにしました。講習の日程は3日間。坊津



町の平崎という、海や景色の美しい所で行われたのですが、ボンベを背負って海に入った最初の感想は、周りの景色より何より、「水中で息ができることの素晴らしさ！」でした。これほどの感動はそうそう味わえるものではありません！本当に魚たちと同じように水中で動き回れるこの感じ！全く慌てる必要がありません！こんな風に感動に浸っている午前中に、マスククリアーや水中での機材脱着等一通りの講習メニューを消化し、午後はサンゴや海藻等の多いところを案内してくれるというD師匠の粋な計らいもあり、楽しく講習の全日程を終了することができました。この講習を受けてからというもの、水中での作業が落ち着いてできるようになり、なぜか素潜りや海藻の見分け方まで上達のスピードが上



実際はもっとキレイですよ！

がったような気がします。これでやっとスタートラインに立てました。

この厳しいご時世、早く水中での作業に慣れ、スタートでの出遅れを少しでも挽回していきたいと思っています。水産試験場の皆様、藻場調査に協力してくださっている支庁、農林水産事務所、専技室の皆様、市町村役場、漁協の皆様、これからもご指導よろしく申し上げます。1年後には、「マメタワラが...」「アカモクの種を...」といったご相談にも素早く対応できるよう頑張ります。

（生物部 今吉）